



1996.11.26 落合宿本陣 山下正子

良心の灯いつまでも

二十一世紀に想う

回想・一九五一年のこと（二）

小畠 尚憲

瀬野 真吾

服部

「燎原」合本のすすめ

合本への感想

読者より

編集後記

良心の灯いつまでも

服部 真吾

(二) 勝利和解の日

二十世紀が終わろうとする一九九九年十一月八日、関西電力の賃金差別は正と人権侵害の撤廃を求めて闘われてきた関電争議が全面勝利和解しました。三十年にわたる闘いを支援して下さった全国の勝利でもあります。心からお礼申し上げます。

その日、私は大阪地裁の大法廷へ妻を伴って入った。間もなく始まるであろう勝利和解の調印式を今日まで私たちの闘いを支えてくれた家族会の一人として、どうして見てももらいたかったからでした。

和解の内容は大阪・神戸・京都・和歌山の四地裁で争われている賃金差別事件、社長への申し入れを行っているメンバー、そして九五年に最高裁判決が降っている人権裁判のすべてを含む争議を解決する画期的なものです。

(三) レッドページと職場の闘い

この勝利和解は、同様の賃金差別や人権侵害で苦しむ多くの労働者の闘いを励ますだけでなく、首切り・リストラ・雇用不安で労働者的人権が無視される今日、この勝利は全国の労働者を励ます大きな勝利であると思います。それは、日立・安川電機などの差別事件の勝利解決となつて現れています。

京都における「関電争議」に関わった一人として闘いを振り返りつ

つ、思いつくままつづってみたいと思います。

(二) 闘いのはじまり

一九七一年四月三十日、松本育造さんら四名の関電労働者が弁護士付き添われて、神戸地方法務局人権擁護課を訪れ、関西電力の非人間的差別、監視、私生活の干渉行為を排除することを求める要請の申請を行いました。これが関電人権闘争のはじまりでありました。その後、この闘争は賃金差別は正裁判へと展開していくました。では、なぜ四人の労働者が関西電力を告発する闘いに立ち上がったのでしょうか。

一方レッドページで痛手を受けつつも立ち上がった労働者たちは労働強化に反対する職場闘争や、「電産刑賃金」を守る闘いの中で、一九五九年には関電労組本部執行委員の三分の一が旧電産系活動家で占めるようになりました。職場では「宿直室をキレイにしてほしい」「電気炊飯器や洗濯機を備えてほしい」など、職場要求を通じてひどかつた労働条件を改善していきました。

これに伴い電力経営者は労働組合を労使協調の組合に変質させるべく「電産」を企業別に分断、電産関西本も企業単位の関西電力労働組合になつてしましました。

送電と九配電会社を九つに分割整理し完全民営化しました。

これに伴い電力経営者は労働組合を労使協調の組合に変質させるべく「電産」を企業別に分断、電産関西本も企業単位の関西電力労働組合になつてしましました。

(四) 職制動員し活動家孤立政策

このような事態に電力経営者は危機感を抱き労務担当者会議を開催、各社の状態を詳細に分析しました。そして関西電力は共産党員や支持者への「孤立化・排除の特殊対策」をはじめていったのです。特殊対策は「予防措置と対抗措置」にわかれ、新入社員指導員制度の活用や、矯正不可能な党員に対してもは企業内排除を終局的目的とす

燎原

るなどでした。一九六四年から一九六六年の間に活動家たちは組合役員選挙では当選できない状態になっていました。

(五) 労働者の反撃

会社から特殊対策による攻撃がつけられている中でも、活動家たちはひるむことなく職場の声をビラにして伝えていました。

一九六九年元旦、労働者の団結をよびかけるビラを社宅に配布した一人、高馬士郎さんが「けん責」処分を受けました。「事態がここまできたら社会的に鬪うしかない」という決意をもって「関電ビラ裁判」が開始されたのです。この一つの決断は直ちに各地に伝わり、大阪では自主上映運動の映画「橋のない川」を観ただけで、「今後普通の映画館以外では観ません」という反省文を書かれた青年が、大阪弁護士会人権擁護委員会へ訴える事件がありました。

こうした運動の広がりの中、関電ビラ裁判の弁護団に、重要な会社側の極秘文書が匿名で郵送されとき、「会」の活動を軌道に乗せて、その内容は、活動家の松本育造

さん、水谷治さん、速水一郎さん、三木谷英男さんらの上司たちによ

る役職者会議の議事録でした。関西電力神戸支店の営業所ごとに全

役職者を会議室に集め、松本さん

らの直接の上司から「どういう方法を使えば、自分で会社を嫌になつて退職に追い込むことが出来るか」の報告を行い、事例研修を行つていたのです。文書の冒頭には神戸支店長の押印がされていました。

(六) 三木谷英男さんと「励ます会」

関西電力を告発した三木谷さんは、一九六八年九月尼崎営業所から大阪を飛び越して、京都上営業所へ転勤させられた。会社の活動家を孤立させるための「特殊対策」によって、告発の日から三木谷さんと京都の活動家を中心とした闘いが始まったのでした。

三木谷さんは神戸地裁へ提訴した翌年一月に結婚されました。相手の方は看護婦さんでした。控え目で冷静沈着な行動は強く印象的です。やはり看護婦さんだなあと思いました。奥さんの和江さんは三木谷さんの活動をしっかりと支えてこられた陰の立役者であつたと思います。

一九七一年五月四日、会社を告発してまもなく「三木谷さんを励ます会」が結成されました。事務局長に故森田貞夫さんが就きました。森田さんは誠実な人柄でした。裁判闘争の基礎をしっかりと築き、「会」の活動を軌道に乗せて、事務局長を私に引き継ぎました。

(七) 門前ビラ配布と立看板

一九七三年六月、三木谷さんが勤務する京都上営業所の門前で私と三木谷さんでビラをまきまし

一九七二年の秋でした。

一九七一年九月十八日、「関電の人権侵犯を告発する真相発表会」が開催されました。十一月二日、神戸地裁へ「精神的苦痛に対する損害賠償として、各自に五〇万円の支払いと名誉棄損を回復させるための謝罪文を掲示せよ、今後、このような人権侵害を禁止する」の内容の訴状を神戸地裁へ提出して裁判闘争に入りました。

三木谷さんが提訴を決意したときの言葉に「自分の会社の社長を相手に喧嘩するということは大変な決心でした」と述べたことは當時の仲間では知らぬ人はいないと思います。

三木谷さんは神戸地裁へ提訴した翌年一月に結婚されました。相手の方は看護婦さんでした。控え目で冷静沈着な行動は強く印象的です。やはり看護婦さんだなあと思いました。その当時「人権」という機関紙を発行していました。社員に人権やビラを郵送するところが近くの交番所へ通報したところが近づいてビラをまきつづけました。警察官が立ち去ったあと、公道（歩道）と会社の敷地を跨いでビラをまきつづけました。

会社が近づいてしまった。夜は気分が高揚してよく眠れなかったのを今も覚えています。会社の慌てぶりは想像以上のものでした。ビラを入れるゴミ箱をまいている近くに置いて嫌がらせをしてきましたが、入れる社員は思ったほど多くはありませんでした。あと少しで終わろうとしたとき、警察官がきて、「公道でビラをまくな」と云う。二言三言やり取りしたが聞き入れない。やむを得ず会社の敷地内に足を入れてまきました。警察官が立ち去ったあと、公道（歩道）と会社の敷地を跨いでビラをまきつづけました。三木谷さんは神戸地裁へ提訴した翌年一月に結婚されました。相手の方は看護婦さんでした。控え目で冷静沈着な行動は強く印象的です。やはり看護婦さんだなあと思いました。奥さんの和江さんは三木谷さんの活動をしっかりと支えてこられた陰の立役者であつたと思います。

こうした運動の広がりの中、関電ビラ裁判の弁護団に、重要な会社側の極秘文書が匿名で郵送されとき、「会」の活動を軌道に乗せて、その内容は、活動家の松本育造

た。関西電力京都支店の事務所で初めてのビラまきでした。前日の夜は気分が高揚してよく眠れなかつたのを今も覚えています。会社

の慌てぶりは想像以上のものでした。ビラを入れるゴミ箱をまいている近くに置いて嫌がらせをしてきましたが、入れる社員は思ったほど多くはありませんでした。

あと少しで終わろうとしたとき、警察官がきて、「公道でビラをまくな」と云う。二言三言やり取りしたが聞き入れない。やむを得ず会社の敷地内に足を入れてまきました。警察官が立ち去ったあと、公道（歩道）と会社の敷地を跨いでビラをまきつづけました。

会社が近づいてしまった。夜は気分が高揚してよく眠れなかったのを今も覚えています。会社の慌てぶりは想像以上のものでした。ビラを入れるゴミ箱をまいている近くに置いて嫌がらせをしてきましたが、入れる社員は思ったほど多くはありませんでした。

あと少しで終わろうとしたとき、警察官がきて、「公道でビラをまくな」と云う。二言三言やり取りしたが聞き入れない。やむを得ず会社の敷地内に足を入れてまきました。警察官が立ち去ったあと、公道（歩道）と会社の敷地を跨いでビラをまきつづけました。

勧者に読まれています。

闘いが初期のころ、会社の人権侵犯を多くの人に知らせようと、手づくりの立て看板を関電京都支店と伏見営業所の付近に設置しました。立て看板にまつわるこんな話があります。伏見営業所へ会社の幹部が来た日、例の看板が何者かによって一時取り外されていた

のです。立て看板が幹部の目に留まるのを恐れてのことだったと思いました。立て看板は原発問題で大きな話題になっていた久美浜町や近鉄東寺駅の近くにも設置しました。(はつとりしんご)

(続く)
元関電差別賃金裁判原告)

二十一世紀に想う

瀬野 尚憲

作家・住井すえさんの澆測とした写真が「九十歳の人間宣言」(岩波ブックレット)の表紙を飾っている。その中で人間九十になつて、ろくな話をしたら、それは化物ですよね。と、来場の方々を笑わせ、その言葉と裏腹に、くだけた言葉で、この社会、ことに天皇制に痛烈な批判を加え、「闘うしかない」と。「橋のない川」の第八部完結に執念を燃やしていられた。そして学歴は小学校だけという。ぐうたら

ると、パグウォッシュの先覚者たちは三、四十年まえ、私たちに地球の理想を教えている。

然し現在地球は、多数の民族、それぞれ異なる文化、宗教、経済や政治形態を抱え、お互いに闘争がある。核廃絶は是非実現させねばならないが、国家解体は急ぐ必要はない。九九年九月、国連ミレニアム宣言は二十世紀の反省から二十一世紀への展望を私たちに示している。十二月七日、EU首脳会議は欧州基本権憲章を採択した。日本国憲法の主権在民、戦争放棄、人権尊重の精神は、これら宣言や憲章を先取りしたものとして高く評価される。

戦争は何ら解決をもたらすものではなく、軍隊もまた平和と国民を守るものでないことを私たちは経験から知っている。今アジアの趨勢は、アセアンに見られるように、軍事同盟否定・民族協和・多様文化の共存に向かっている。朝鮮半島統合は、長い年月を要するとも、現実のものとなつた。日米軍事同盟を解消し対等な友好関係が成立しない限り、世界の平和は訪れない。ジックリ腰を据え、沖縄からの発信を真剣に受けとめて、この

問題に取り組んでいきたい。

振り返れば、周・ネール氏は偉大な指導者であった。両氏の「平和五原則」は、現在も息吹いている。お互いの体制を認め、共存する道こそ、平和への第一歩である。

現在も劣悪な生活条件のもと、餓えと悪疫に苦しめられている多数の民族があり、その最大の被害者は子供である。消費こそ美德といふキヤツチ・フレーズは慎ましやかな消費に置き換えられなければならない。現在の日本は、大量輸入し、ゴミの山を築いている。それも国内総生産を超える国債・地方債の下においてである。将来の人口増大に伴つて深刻な食糧不足が懸念されている。弱肉強食の市場経済に振りまわされることがなく、自然を保護し、農業生産に重点をおくことが課題となる。人類のみならず、生物の保全を否定する強大な軍備は、人類の敵であるという社会通念が、二十一世紀のいつの日か浸透するにちがいない。

二十一世紀、科学がどこまで発達するか、私には想像もできない。もちろん、ITの発達によつて情報は国家の壁を超えて、地球外居住

燎原

も実現するだろう。それにしても最悪の場合、核戦争の起らぬる保証はない。またクローンやサイボーグ人間が量産される危険性も絶無とは云えない。しかし人類の觀知は恒久的な平和を築くだろう。パグウォッシュ精神は二十世紀の指針となる。

二、

辺見庸氏は、現在の日本社会を「鶴」のような全体主義国家と規定している。日本権力層には責任感、倫理感が完全に欠け、日本社会そのものが崩壊に瀕していると、云えるかもしれない。日本の政財界には危機感が全くなく、権謀術数に明け暮れし、アメリカ合衆国の鼻息を伺うに汲汲としている。魑魅魍魎が跋扈し、全体主義の疾走する大ビル群の間を、黙々とうな垂れて帰途につく大衆の群衆を書いていた小説を思い出した。SFを先取りした彼の作品は今日の東京に具體化されていると思えないこともない。二十一世紀の初頭の目標は、今芽生えつたる人間性、自主性回復への若い力に期待したい。

十一世紀初頭の目標である。自民党は余りにも長く政権の座に胡座をかき過ぎた。取り敢えず政権交代が、中途半端な日本民主主義前進への第一歩となるにちがいない。

日本の政治は、大衆から収奪して大企業に貢いでいる。現在の政策で経済安定を望むのは、座して大河の清き、を待つにひとしい。更に日米両国は軍事力強化を謳いあげた。緊急性も必要性もない事業に国費が浪費され、膨大な借金を更に膨れ上らせていく。それにしても日本国民の無氣力を感じざるを得ない。『世界』一月号の巻頭に、長らく海外にいた方が、日本に帰つて来たとき、かつての日本人の豊かな表情が失われているのに驚いたとあつた。私は途端に昔、H·G·Wellsが、車輛の疾走する大ビル群の間を、黙々とうな垂れて帰途につく大衆の群衆が有罪と告発した。昭和天皇の名罪で、日本国家と天皇ヒロヒトを有罪と告発した。会議があげられたとき、「ワーッ」という喧声が会場を包んだという。会議の決議は法的拘束力はなくとも、日本国憲法を育て、スウェーデンマーケのような「生活大国」を目指して進みたい。幸い、日本で権力の座につく人に、世界に通じる高い知性を求めるのは無理であろうか。私たちは二十一世紀、地球は亡ぶ。人間だけでなく、生

きとし生けるものを大切にする心を育てたい。小浜市の名刹の住職・中嶋哲演氏は、「他人の利」と女性解放へ繋がるにちがいない。そしてラッセル法廷を超えるものとして高く評価されているが、「赤旗」以外、マスコミはこの会議を完全に無視した。この問題が片付かない限り、日本の戦後は終わらない。

日本には世界独特の「天皇制」なるものがある。現在の天皇制は明治以来のものにせよ、社会差別の根源になつていて。私は今すぐ天皇制を廃止せよと云つてゐるのではない。明仁氏、美智子さんは、

開かれた皇室を目指しているように見える。二人の意志如何にかわらず、天皇制は日本の民主化を阻害している。何十年か先の憲法改正に当つて、天皇条項をどう結局同じ過ちを犯すことになりかねない。

『世界』一月号で、ハタミ・イラン大統領の講演を読み、彼の哲学的思索の深さに感心した。日本で権力の座につく人に、世界に通じる高い知性を求めるのは無理であろうか。私たちは二十一世紀、日本国憲法を育て、スウェーデンマーケのような「生活大国」を目指して進みたい。幸い、日本でも浣滌とした若い力が育ちつつある。現在のような時代が統けば、地球は亡ぶ。人間だけでなく、生

きとし生けるものを大切にする心を育てたい。小浜市の名刹の住職・中嶋哲演氏は、「他人の利」と「自己の利」を結ぶ接点を、現実の中にも、原始仏典の中にも見出していく。

どの方向に心でさがし求めてものを見出さなかつた。そのように、他人にとつても、それぞれ自己がいといのである。それ故に、自分のため

日本には世界独特の「天皇制」なるものがある。現在の天皇制は明治以来のものにせよ、社会差別の根源になつていて。私は今すぐ天皇制を廃止せよと云つてゐるのではない。明仁氏、美智子さんは、

に他人を害してはならぬ。すべての「生きもの」にとつて生命が愛しい。己が身にひらくべて、殺してはならぬ殺さしめてはならぬ。

遍の原理である。人類が平等で安定した生活を基盤にして、戦争のない平和な社会を築き上げることを、期待している。

回想・一九五一年のこと（二）

小畠
哲雄

二〇

八月から九月にかけて、東京、横浜で原爆展をやり、私は京都に帰ってきた。「占領下の原爆展」の終わりの部分にも書いていることだが、十一月の「天皇事件」について触れないわけにはいかない。

ことは、「原爆展」を「京大の中でもやろう」という話が持ち上がりつたことから始まる。そういえば、丸物でやったときは夏休み中であったから、説明などで参加した学生以外の、大部分の京大の学生には見てもらっていないのである。

だが、大学当局はうんと言わなかつた。理由を明言しないのだが、どうやら十一月の初めならない、というようなニュアンスであつた。私たちは、十一月の中旬を予定していた。

大学が時期にこだわった理由がやがてわかる。この時期、京都、奈良方面を旅行する天皇が、京大を訪問する、ということであった。京都、奈良滞在中に、サンフランシスコで調印され、その批准が国で承認された講和条約と日米安保条約とに署名をする、というスケジュールは私たちも知つて

はいたが、京大に天皇が来る、というのには全くの初耳であつた。そのうちに、東大路から京大正門までの道路と大学の生け垣とがきれいになつた。驚いたことに、正門から先、吉田神社の鳥居までの一〇〇メートルばかりの舗装はそのままである。生け垣も手入れされていなかつた。

大学本部のある時計台の建物も、玄関から二階の学長室まできれいになつた。ただし、それも見えるところだけで、一階の廊下の向こう側にある法経第一教室などは、そのままであつた。

の末、最終的には、「天皇の来学を阻止することも、歓迎することもしない」ということになり、その旨、新聞記者たちに、スポーツマンとしての私が表明した。天皇への公開質問状を提出することも決まっていたが、そのことは言わないでいた。

その時、都新聞の記者が、「小畠君、そんなことしてていいのか、あんたに逮捕状が出てるで」と、言い出した。私にはなんの心当たりもなく、その後輔導部に行き、「私に逮捕状が出てる、つてほんとですか」とたずねてみた。しかし、学生課長は「そんなこと聞いてないで」と答えた。

同学会は、原爆展を吉田分校で開くことを認めるよう、重ねて大学当局に要請した。あわせて、ありのままの大学を見せるべきだとも要求した。実は、そこにいたるまでいろいろな議論があつた。「天皇来学阻止」という意見もあつた。時計台の上に赤旗を立てよう、という「過激」な意見も飛び出した。

当時の同学会の指導体制は、卒業を目前にした青木委員長が事実上引退し、武田総務部中央委員が委員長代行、私が総務部中央委員代行として仕事をしていた。議論

うするか、少し迷つた。日本人の中で、苗字のない人物がいるなんて考えたこともなかつたのだから。しようがないな、とつぶやきながら、「天皇裕仁殿」と書き入れ、書記に印刷に回すように頼んだ。

その日、私は円山音楽堂で開かれる全日自労の決起集会に招かれていった。そこで、連帯の挨拶をす

ることになつてゐた。そのころは、学生自治会の代表が労働組合の集まりに出ることが特別のことではなかつた。ただし、私にとって、四九年の夏、東京の下町で、失対労務省として登録し、日雇労働者の組織化をやろうとして、失敗した苦い記憶は消えていなかつた。原爆展の宣伝のために、西陣の職業安定所に出かけたことがある。当時、京都の市電は片道六円の時代であつた。十円を出した私に車掌は釣銭をくれずに、「日雇労働者割引往復券」という切符をくれた。日雇労働者とまちがえられた私はすっかりいい気分になつた。そういうこともあつて、自労の集会に出ることは他人事とは思えないものがあつたのである。

そんな気分で同学会の建物を出ると、それまで、向かいの建物のかげにいた人物が、すつと動きだし、私のあとについてくる。

「今日は、護衛付きやな」と私は独り言を言い、わざと速度をゆるめてみた。彼も歩度をゆるめた。私が追い越し、さきに正門を出た。そのあと、大学の正門を出ようとすると、彼は吉田分校の門前に立ち止まつて、こちら

を見ていた。同時に、正門横の守衛の詰め所から、あの渡辺刑事が出て來た。彼の「人相書き」を学生内の掲示板に張り出し、この人物は京大担当の刑事だから、発見したら、同学会に通報を、などといふことに、私もかかわつていてから、もちろんよく知つてゐる。私は挟み撃ちになつた。

「小畠君、逮捕状が出てる、そこの派出所にあるから、来てくれ」と言うのである。東一條の派出所に行くと、逮捕状を示された。

「暴力行為等処罰に関する法律違反」これが、私がしたとされる容疑事実である。しかも、川端署ではなく、市警本部へ送られるというのだ。

私は二つのことを要求した。一つ、手錠ははめないこと、二つ、トラックやジープではなく、乗用車をまわすこと。彼等はかんたんに承知し、すばらくすると乗用車が来た。一人の私服刑事に挟まれ、そのころ来日していたアメリカのプロ野球チーム、サンフランシスコ・シールズと日本のプロ野球チームとの試合の実況中継を聞きながら、私は市警本部に入った。

「全京都青年学生渋走集会」があつた。その集まりで、私は、学生組織を代表して「サンフランシスコ両条約の批准反対」の集会決議案を提案した。その中で、「京都から選出された社会党議員の中に、講和には賛成、安保には反対」という「二股膏薬みたいなのがある」と水谷長三郎代議士を非難した。集会後、デモになつたのだが、そのデモの一部が、川端通りに面した水谷代議士の自宅に石を投げて、玄関を壊した。私の演説が、その「暴力行為」を扇動した、容疑事実をそう告げられて、私はバカになつた。デモ行進のコースに水谷代議士の自宅があるなどまったく知らなかつたのである。しかし、私は否認もせず、黙秘権を行使するとだけ宣言した。

翌十一日は、一日中雨であつた。私の取り調べは市警本部でだが、身柄は中立売署の留置場におかれ、そこから見てみると、雨合羽を着た警官がたえず出入りしている。それで、天皇がもう京都に入つてゐるのだな、と気が付いた。彼等は、その警備に動員されていふのだなどわかつた。明日は京大に来ることになつてゐるのだが、

「答え、答えません」

なにごともなくすめばいいが、と思つていた。

その日、私からなにも聞き出せなかつた担当の部長刑事は、翌二日の取り調べでは、私になにかしゃべらせようと、自分の方からいろいろなことを話した。

彼は沖縄戦の生き残りであつた。摩文仁の丘まで米軍に追い詰められたとき、日本の敗北を思い

知らされた、戦後他に仕事もないままに警察官になつたが、留置場の看守になつたときには、血の小便が出るほどだつた。そんなことも話してくれた。また、私の質問に答えて、逮捕の手続きなど、刑事訴訟法の条文についても説明してくれた。

その後、私は「今日はいろいろ話してくれてありがとう、悪いけど、僕の方からは何も言うことはないから」と宣言した。

「そんな殺生な、今日はいろいろ質問事項を考えてきたのに」とこぼすので、

「じゃ、その質問をしてみてく氣を取り直して彼は質問をすれ」

「は?」

「そのとおり書いて」

「そんな」

「そのとおり書いて」

彼は、しぶしぶ調書にそう書いた。

「はい、つぎの質問」

こういったことの繰り返しで、

質問項目と、すべて「答えません」

だけの私の調書ができた。それに
目を通してから私は、ペンを借り、
最後の部分に大きく×印を書き入
れた。

(おばた てつお・八幡市在住)

「燎原」合本
(一一五〇号) のすすめ

幸い各方面から好評を頂き、

「しんぶん赤旗」「京都民報」にも
紹介の記事が出ました。あと六〇

部は販売しないと採算がとれませ
ん。この機会に購入をお考え頂き、
また各方面におすすめ等をお願い
します。

頒価三、五〇〇円(送料込)。

郵便振替

○一〇六〇一七一五七六一

燎原社。

合本への感想 読者より

燎原一一五〇

故人になられた皆様を偲び感慨

無量です。

(堀江保次・京都府中郡)

燎原を御送付いただきありがとうございました。先生方が御努力下さいまして、立派な冊子になりましたことを兄故湯浅貞夫の仏前に報告しました。これからも平和民主主義に御貢献下さいますことを心から願っております。編集にたずさわられた先生方の御健勝を心から御祈りいたします。

(三双順子・京都市南区)

編集後記

大変寒い冬でしたが、二月下旬には早四月なみの暖かさです。梅が咲き、桜さくえつぼみをふくらませました。自然是順調に循環しているようです。

順調といえないのは内外の政情

でしょ。KSD汚職がらみで小山参議員が逮捕されただけでなく、ついに参議院のドンといわれた村上議員が辞職しました。いま森内閣の前途は風前の灯というところです。ハワイでは米原潜が緊急浮上して宇和島水産高校のえひめ丸に衝突・沈没させるという大事件がおこりました。事情がわかるやしをしておられたことを想い出します。故人や高齢者の立派な人間としての誇りを守る闘いの歴史を必ず伝えていきたいのです。

この機会に購入をお考え頂き、また各方面におすすめ等をお願いします。

頒価三、五〇〇円(送料込)。

郵便振替

○一〇六〇一七一五七六一

(佐藤匡子・山形市)



TEL FAX	会および会報については、 左記へご連絡ください。 〔事務局〕
一 一 一 三 三	〒六〇六一八一〇七 京都市左京区高野東開町 井手 幸喜
〇七五七三一三八二三	